



二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便承認 毎月(二・三・四・五・六・七・八)の日発行

「犠 牲」

ちいろば会理事長 大澤 星一

教会のカレンダーでは、今年(ことし)は3月6日(水)に「灰の水曜日」という記念日を迎えました。この日から4月21日の「イースター」まで「受難節(じゅなんせつ)」という教会の季節になります。

この「受難節」とは、私(わたし)たちが救い主(すくぬし)として信じているイエスが苦しみに遭(あ)われ、十字架(じゅうじか)につけられたことを覚えて過ごす期間(きかん)です。なぜ、イエスが苦しまなければならなかったのか、どんな苦しみに遭(あ)われたのかを、教会では聖書(せいしょ)を通して聴(き)き、感(か)じ、自(み)分の生(な)き方(かた)や考(かんが)えを見直(みな)すことがテ(て)マになっ(な)っています。

なぜ、救い主(すくぬし)であるイエスが苦しまなければならなかったのか、とい(い)えば、それ(それ)はと(と)りもな(な)おさ(さ)ず私(わたし)たちの罪(つみ)深(ふか)さや愚(おろ)かさ、弱(よわ)さのため(ため)なの(の)ですが、つ(つ)ま(ま)り(り)は、イエス(イエス)は私(わたし)たちのため(ため)の犠(ぎ)牲(せい)とな(な)られた(ら)のだ(のだ)、とい(い)うこと(こと)です。

私(わたし)たちが生(な)きてい(い)くとい(い)うこと(こと)は、た(た)くさん(さん)の犠(ぎ)牲(せい)の上(う)に成(な)り立(た)っています。何(なに)よりも食(た)べない(ない)と死(し)んでしま(ま)います

が、その食(た)べ物(もの)はすべ(す)て命(いのち)ある(あ)るもの(もの)です。肉(にく)や魚(さかな)だけ(だけ)でな(な)く、お米(こめ)やパン(ぱん)の原(げん)料(りょう)の小(こ)麦(むぎ)、野(や)菜(さい)もすべ(す)て命(いのち)ある(あ)るもの(もの)です。私(わたし)たちは生(な)きるため(ため)に他(た)の命(いのち)を奪(うば)わな(な)ければなら(ら)ない生(な)き物(もの)＝犠(ぎ)牲(せい)を必(ひ)要(よう)とす(す)るの(の)ですから、

それ(それ)は考(かんが)えてみ(み)ればす(す)ごく残(ざん)酷(こく)な生(な)き物(もの)なの(の)だ(のだ)とい(い)うこと(こと)です。

生(な)き物(もの)だけ(だけ)ではあ(あ)りませ(ませ)ん。よ(よ)く、日(に)本(ほん)は戦(せん)後(ご)〇〇年(ねん)の間(あいだ)平(へい)和(わ)だ(だ)った(った)、と(と)言(い)いま(いま)すが、その平(へい)和(わ)のため(ため)に、

沖(おきな)縄(なわ)では戦(せん)争(そう)のため(ため)のあ(あ)めりか(か)の基(きち)地(ち)が押(お)し付(つ)けら(ら)れてき(き)ました(ました)。そのせ(せい)いで、沖(おきな)縄(なわ)ではあ(あ)めりか(か)の兵(へい)隊(たい)が

少(しょう)女(じょ)に乱(らん)暴(ぼう)したり、命(いのち)を奪(うば)ったりす(す)る事(じ)件(けん)や戦(せん)闘(とう)機(き)やヘリコプ(こ)ターが民(みん)家(か)や学(がく)校(こう)に落(お)ちるとい(い)った事(じ)故(こ)が

沢(た)くさん(さん)お(お)こ(こ)す(す)てい(い)ます(ます)。これ(これ)も考(かんが)えてみ(み)れば、私(わたし)たちの平(へい)和(わ)のため(ため)に沖(おきな)縄(なわ)が犠(ぎ)牲(せい)にな(な)っている(てい)います(ます)。

先(せん)月(げつ)2月(に)24日(に)に沖(おきな)縄(なわ)では県(けん)民(みん)投(とう)票(ひょう)が行(おこな)われま(ま)した(した)。その結(け)果(か)、70%以上(いじょう)の(ひと)人(あた)ら(べ)い(ぐん)士(き)ち

造(つく)るこ(こ)とに反(はん)対(たい)す(す)る、と(と)投(とう)票(ひょう)しま(ま)した(した)。私(わたし)たちはもう犠(ぎ)牲(せい)にな(な)りたく(た)くない(ない)とい(い)う意(い)志(し)です(す)。でも、こ(こ)う(う)した(した)意(い)志(し)表(ひょう)明(めい)

は、初(は)め(め)て(て)ではあ(あ)りませ(ませ)ん。い(い)った(た)い(い)何(なん)回(かい)「基(きち)地(ち)は(は)いら(ら)ない(ない)！」と(と)言(い)わ(わ)な(な)ければなら(ら)ない(ない)ので(ので)し(し)ょう(しょう)か(か)。今(いま)の

政(せい)府(ふ)はこ(こ)の沖(おきな)縄(なわ)の(ひと)人(あた)ら(べ)い(ぐん)士(き)ちの意(い)志(し)を(を)し(し)っ(し)かり(かり)受(う)け止(と)め(め)る(る)べ(べ)き(き)ではあ(あ)りませ(ませ)ん(ない)で(で)し(し)ょう(しょう)か(か)。

私(わたし)たちが平(へい)和(わ)に過(す)ぐ(ぐ)す(す)た(た)め(め)の犠(ぎ)牲(せい)は、イエス(イエス)の十(じゅう)字(じ)架(か)だけ(だけ)でも(も)う十(じゅう)分(ぶん)な(な)はず(はず)です(す)。誰(だれ)も犠(ぎ)牲(せい)とな(な)ら(ら)ず(ず)に、誰(だれ)も

が平(へい)和(わ)に過(す)ぐ(ぐ)す(す)こ(こ)と(と)が(が)で(で)き(き)る(る)世(せ)界(かい)を(を)心(こころ)から祈(いの)り求(もと)め(め)ま(ま)し(し)ょう(しょう)。

入浴サービスを始めて・・・

ちいろば園主任 奥田 陽子

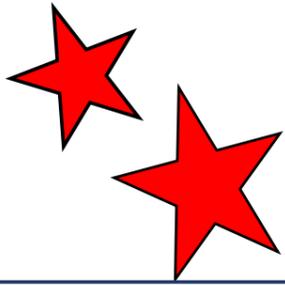
ちいろば園が提供している生活介護のサービス内容の一つに「主として昼間において、入浴、排せつ及び食事等の介護の機会を提供すること」とあります。しかし当初入浴については、通常夜間に行なうことではないか、家庭が担う役割ではないか、ちいろば園が実施しなくてもそれに代わるサービス（居宅介護）で充足されるのではないか等々の理由に加え、希望する声がほとんどなかったため実施してきませんでした。

ちいろば園開設30周年を迎えた今、利用者みなさんの平均年齢は37歳、40歳以上の人の割合は全体の3割を超えます。親御さんも加齢とともにだんだんとご自身のことで手一杯になり、多くのご家庭においてこれまで出来ていた支援に何らかの変化が生じています。入浴もその一つです。「親の体力が無くなってきて毎日のお風呂の介助は大変になってきました」「毎日親と一緒に入って洗うのはしんどいから、今は回数を減らしています」「お父さんがいた時は時々見てもらえていたけど、亡くなってからは…」等の声が聞こえるようになってきました。次第にグループホーム等での暮らしに移行するニーズが高まりつつありますが、充足できるほどの住居数や支援体制がないことや、新たな暮らしへの移行はもう少し先でいいが部分的に支援を必要とするご家庭が増えていることから、今年2月より入浴サービスの実施を開始しました。

入浴時に全面的或いは部分的に介助が必要であり家族の介護負担が大きいことを理由に親御さんが希望された方のほか、利用者ご本人が「家では一人で入浴してうまく洗えなくて困っているけど、親に口出しされるのは嫌…。ちいろばで洗い方を教えてもらいたい」と希望された方もおられます。どの方の場合も、現状では清潔を維持することに課題が生じていることを前提とした支援が必要であることは共通しています。しかしながら、専ら清潔にすればいいのではなく、長期的視点に立った支援も考える必要があります。Aさんは、入浴する日には着替えやタオルの入ったかばんを周囲に見せて「今日は入浴の日よ！」といった感じでアピールしながら主体的に準備をされるのですが、入浴中や入浴後の様子は違い、「なんでちいろばでお風呂入らなあかんの?!」と感じておられるのかどこか納得がいかないような面持ちです。Aさんにとってこれまで長い間親御さんと一緒に入っていた「入浴」と、私たちがAさんの将来の暮らしをイメージした時に考える「入浴」とはAさんにとって別物であり、まだまだビジョンが一致できていないため困惑しているのではないだろうか…。ではどうすれば一致できるだろうか…。とあれこれ推測したり考えたりしながら、個別の支援について日々悩みながら支援にあたっています。

入浴に時間がかかるとご家族からお聞きしていたBさんは、開始当初はちいろば園でも一つ一つの動作がゆっくりでしたが、支援者が具体的な改善の提案をする中でBさん自身が気づき、今では「次の人がいるから、ちゃんと時間を気にして入っていますよ。職員が時々ぞいて声かけてくれていました。でも、ぼくもうだいふ慣れてきましたよ！」と自信がついた表情で教えてくれるようになりました。ご自分で入浴を希望されたCさんは、「洗い方を教えてもらって、ちいろば園で入浴ができてよかったです。」とうれしそうに話してくれています。

入浴の支援は、安全や衛生に配慮したものであると同時に、個々の利用者の尊厳に配慮したものであることも大切なことです。今私がしていることを相手はどう感じているだろうか、強引な介入になりすぎではないだろうか、これからも自身の行動を点検しながらすすめていきたいと思っております。



しゃしん とも しょうかい 写真で友だち紹介



このページでは、利用者の皆さんに、お友だちをひとり選んで写真を撮ってもらい紹介してもらいます。紹介をされた人には、次号であらたなお友だちを紹介してもらうという数珠つなぎのコーナーです。

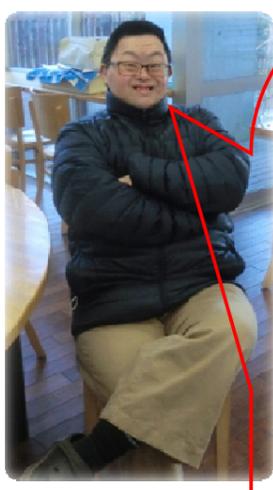
くさのだいご 草野大悟さんより さいとうそういちろう 齋藤総一郎さんを紹介します。



さいとうさんは
ぼくをたすけておくれ
ぼくをあんなでね
泣いてるときかたしくかたかた
さいとうさんまたくさいはなしてね
やさしいです
ごめんなさいアアおくれ
アアアアアアアアアア
大悟



たつみひろのり 辰巳普宣さんより いはら ゆか 井原由夏さんを紹介します。



#原さん
かわいいです、はなしをしてたのしかった
辰巳は、#原さんが女子きです
#原さんMAGARエの、しごと、しごかり、
がんばってる、ちいろば園の、きさで、
しごと がんばってる、ハルンタイム、
4チョコレートもらいました。4月からも、
しごと がんばろう、
辰巳



かなざわ がっしゆく さんか
金沢のレポート合宿に参加して

えんしよくいん しんぐう ゆうじ
ちいろば園職員 新宮 由士

がつ にち にち いしかわけんかなざわし きょうしつ じっし がっしゆく さんか
3月1日、2日と石川県金沢市にある、ひまわり教室が実施されるレポート合宿に参加してきました。レポート
がっしゆく きょうしつ しょうがいしゃせつ しょくいん しょうがい ひと かぞく きょういくかんけいしゃ
合宿ではひまわり教室につながるのある障害者施設の職員や障害をもつ人やそのご家族、教育関係者など
さまざま たちば ひと さんか しょうがいしゃせつ しょくいん ほうこく たい いけん かんそう の ぎろん ば
様々な立場の人たちが参加され、障害者施設の職員が報告するレポートに対し意見や感想など述べ議論する場
となつています。自身では昨年に続き2回目の参加になります。

さくねん さんかしゃ けんとうかい と く しせい ぎろん ふか わたしじしんおお まな き ば
昨年は参加者のレポート検討会に取り組む姿勢や議論の深さなど私自身多くの学び、気づきの場となったこと
もあり、今回も参加させて頂くことになりました。

ことし やく めい さんか けい ほん ぎろん ほうこくしゃ りようしゃ かか しえん
今年、約60名の参加となり、計4本のレポートについて議論されました。報告者は利用者さんとの関わりや、支援
と く ないよう なか じしん かん ことこま する ほうこく ほうこく
として取り組んでいる内容、その中で自身が感じたことなど事細かにレポートに記して報告します。ただ報告だけ
お がっしゆく だいごみ かん ほうこく たい さまざま いけん かんそう あ
で終わらないのが、このレポート合宿であり醍醐味でもあると感じますが、報告に対し様々な意見や感想が挙げ
られます。

ほうこく くるまいす しょうしゃ いま りよう せんとう い えいせいめん もんだい くるまいす
報告の1つに、車椅子(バギー)使用者のAさんと今までも利用していた銭湯へ行く衛生面の問題から車椅子
のままと脱衣所に入ってもらうのは困ると店員から伝えられたガイドヘルパーの葛藤の話がありました。

さんかしゃ いけん なか とき じしん かん しごと
参加者の意見の中には「その時あなた自身はどう感じたか」「ガイドヘルパーの仕事とはなにか?そもそもガイドヘ
ルパー制度がどういう経緯でできたのか出発点を知ることも必要」

じぶん かいけつ よこ きよひ どうじしゃ さまざま いけん いるよう しゃかい
「自分だけの解決でなく、横に拒否された当事者がいる」など様々な意見がでました。医療モデルから社会モデル
てんかん さっこん しょうがい ひと しゃかい ちいき あ まえ せいかつ おく しゃかいてきしょうへき と
への転換へといわれている昨今、障害をもつ人が社会、地域で当たり前前に生活を送るためにも社会的障壁を取
り除くことが障害福祉に携わる私たちの大きな役割の1つだと感じました。

べつ ひと ひと こうどう じかん ほうこく じかん かんかく ひとり ちが ひと
また、別の一つ一つの行動に時間がかかるBさんの報告では、「時間の感覚は1人ひとり違いがあり、その人の
じかん かんかく たいせつ しょうがい ひと かぞく いけん じかん じんせい ひと ひと
時間の感覚を大切にしてほしい」と障害をもつ人のご家族からの意見や「時間がつながって人生になる、一つ一
こうどう め む ひと じんせい かんが いけん かんが ぎろん
つの行動に目を向けるだけでなくその人の人生を考えてほしい」などの意見もあり、とても考えさせられる議論
になりました。

ひ び えん りようしゃ みな かか とき しえんしゃがわ つごう せつ もんだい
日々、ちいろば園の利用者の皆さんと関わる時、支援者側の都合で接してしまっていることがないか、1つの問題
め い しゃ せま あらた かんが ひとり かんが
にだけ目が行き視野を狭くしてしまっているのではないかと改めて考えさせられました。1人で考えるだけでな
しょくいんかん ぎろん きょうゆう あら き しえん むす つ こんかい がっしゆく おお
く、職員間で議論し共有することで新たな気づきや支援に結び付くことなど、今回のレポート合宿で多くのこ
まな
とを学ぶことができました。

まつなが りょう ひとりぐ しょうかい
～ 松長 玲さんの一人暮らしを紹介します ～

まつなが ことし がつ ぶし となり
松長さんは今年の1月からグループホームにぬふあ星の隣にあるワンルームマンションで一人暮らしを始められました。



ひとりぐ
●一人暮らしはどうか？・・・「わからん・・・大丈夫です」

さみしくない？・・・ 「はい」

こま
困っていることはありますか？・・・「ありません」「あったらインターホンで呼びます」

まいしゅうもくようび
毎週木曜日ヘルパーさんが来られますがどうか？

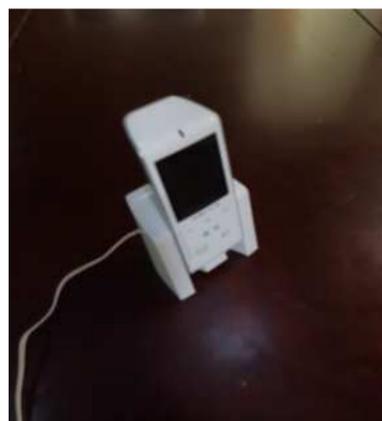
ふろ へや そうじ せんたく いっしょ
・・・「トイレとお風呂、部屋の掃除、洗濯を一緒にしてます」

へや そうじ
・・・「部屋の掃除はひとりでしてます」

ワンルームマンション



グループホーム にぬふあ星



ちょう ゆうしょく となり
●朝・夕食のときは隣にあるグループホームに来られます。

しょくじ
食事はどうか？

「おいしいです！でもエビとレンコンが苦手です」 (まつなが 松長さん)

ちいろば会職員リレー エッセー



『仕事をするうえで心がけている事』

ちいろば園職員 土橋美香

私が仕事をするうえで心がけている事は、入職してからずっと幾度となく耳にしている「当事者主体」ということです。

私がちいろば会に入職して2年、ちいろば園で勤務するようになってやっと1年が経とうとしています。この1年は私にとって自分の内面と真剣に向き合った1年でした。最初は「当事者主体」と聞いて「あたりまえのこと」だと思っていました。けれど、実際支援させていただくうちに、自分で「当事者はこう考えていらっしゃるに違いない」と決めつけていた事があまりにも多いということに気が付きました。こちらの勝手な思い込みで行った支援は、いわば「支援者主体」の支援です。こうした間違った支援がどこからでてきたのか。それは自分の中の意識していなかった差別感や思い上がりだということに気がつき、落ち込みました。では、本当の「当事者主体」の支援とはどういった支援なのでしょう。正直、まだ私の中では様々な場面において迷うことばかりです。

先日、身体障害をもつ友人が長期入院の末、施設に入所しました。そこは知的障害者も一緒に暮らす施設です。入所して1ヶ月経ちましたが、彼女から聞く話には胸が詰まります。食事介助・入浴介助をはじめとする日常生活の支援の中で、介助方法のほかにもちょっとした職員の表情や言葉遣いなどに大変傷ついたと話してくれました。彼女は言葉で自分の気持ちが表現できます。けれど言葉で上手く表現できない方々を支援している私は、その気持ちをきちんと汲みとっているのだろうか。反省する事ばかりです。その瞬間に傷つけていなくても、長い目で見ればその方が本来持っている「生きる力」を阻害してしまっていることもあります。考え始めると、どう支援していけばいいのかわからなくて動けなくなります。

でも慣れや思い上がりで支援を続けるよりも、悩み、迷い、答えを求めながら支援している方がまだましかもしれない…と今は自分を奮い立たせて頑張っています。これからも念頭に「当事者主体」という言葉をしっかりおいて、仕事をしていきたいと思っています。

リレーエッセイは、今号で終了致します。

次号からは、自由なテーマで職員が順番に文章を書きます。

かい えいがかい こうえんかい
—ちいろば会 映画会 & 講演会のごあんない—



ある精肉店のはなし

ほろりのしま
『祝の島』につづく
ほなぶき
瀬瀬あや監督作第二弾

プロデューサー: 本橋成一 製作: やしほ映画社、ボレボレタイムス社



釜山国際映画祭
ワイドアングル部門
正式出品作品



山形国際ドキュメンタリー映画祭
日本プログラム部門
正式出品作品

文化庁映画賞 文化記録映画大賞受賞
第5回辻静雄食文化賞受賞



助成: 文化芸術振興費補助金

こう えん いっばんざいだんほうじん な ら じんけんぶらくかいほうけんきゅうしょしょちょう おおひら かずゆき
講 演 : 一般財団法人奈良人権部落解放研究所 所長 大平 和幸さん

にちじ: 2019年 6月 8日 (土)

じょう えい
上 映 13:30~

こう えん
講 演 15:30~

ばしょ: ちいろば園 2階会議室

にゅうじょうむりょう
入 場 無 料

☆後援会費・ちいろばだより年間購読料(2018年12月1日～2019年1月31日)

篠原範子、網 時子、窪田義廣、清水 浩、建石より子、川崎富久子、西村可歩子、
梶川慶子、中村千賀子、草苑幼稚園、馬見労務教会、愛の園保育園めぐみ会、
日本基督教団浪花教会、学校法人ひかりの子学園、奈良県伝道会婦人部
ろ

以上 敬称は略させていただきます

**きょうせいふにんしゅじゅつ さいばん おうえん
強制不妊手術の裁判を応援しています！！**

さくねん がつ かいさい たいかい なら ぜんたいかい きゅうゆうせいほごほう
昨年12月に開催された「ピープルファースト大会in奈良」の全体会で、旧優生保護法に
よるきょうせいふにんしゅじゅつ と あ
よる強制不妊手術のことが取り上げられました。

たいかい かいさい む かつどう げんちじっこういいんかい どうじしゃ きょうせいふにんしゅじゅつ
大会の開催に向けて活動してきた現地実行委員会の当事者のみなさんで強制不妊手術
たい さいばん おうえん
に対する裁判の応援をしていくことになりました。

ぜんこくかくち きょうせいふにんしゅじゅつ ひがいしゃ こえ さいばん
全国各地で強制不妊手術の被害者のみなさんが声をあげ、裁判がはじまっています。

なら どうじしゃ おおさか さいばん ぼうちょう い おおさか さいばん
奈良の当事者のみなさんは、大阪の裁判の傍聴に行っています。大阪の裁判については、
か きについて よてい みな いっしょ おうえん くだ
下記日程で予定されています。ぜひ皆さんも一緒に応援して下さい。

**じかい さいばんきじつ ねん がつ にち すい じ ふんかいていよてい
次回の裁判期日：2019年4月17日(水)10時30分開廷予定**

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会 年6回 頒価 50円
連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14
TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-31-5760
発行人／ 関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F